

# 学生ら城下町を散策

## 景観施策 竹田市が意見活用

【竹田】建築や都市計画を研究する大学生らに竹田市の城下町を歩いてもらうイベントが18日、開かれた。

日本建築学会九州支部都市計画委員会の主催。市と大分大都市計画・地域デザイン研究室が協力し、市は参

加者から寄せられた意見を景観施策に生かす。

九州内の7大学から学生や研究者ら計約100人が参加した。市内竹田の市中央公民館竹田分館に集まり、藤田和徳副市長が「城下町は、先人が守ってきた景観と若者が求める住みやすさの共存が課題になっている」とあいさつ。市文化財保護調査委員の井上隆さん(72)が岡城や城下町、文化財になっている建築物などについて説明した。

参加者は11班に分かれて町中に出た。武家屋敷通りや旧竹田荘などの史跡や市立図書館、市歴史文化館・由学館といった近年でできた建物が点在する町中を歩き、写真を撮るなどした。

崇城大建築学科4年の菊川結人さん(22)「熊本市は「歴史ある町並みに調和させた建物がある一方で、違和感があるものも見受けられた」と語った。

(指原祐輔)

竹田市の城下町を散策する大学生ら＝市内竹田町